

くすやま美紀(樟山みき)活動報告



2020. 8. 26 NO. 284

連絡先 荻窪5-15-19-704 電話 080-5531-8230

区議会控室 3312-2111(内)2319 FAX 3312-2610

JR阿佐ヶ谷駅 視覚障害者の転落死亡事故を受け

区内JR4駅へのホームドア早期設置を要請

JRへの申し入れ内容

- 1、早急に区内4駅のホームドア整備計画を策定し、速やかに設置すること。
- 2、ホーム中央部に誘導用点字ブロックを設置するなど、視覚障害者の転落防止のためにあらゆる手段をとること。
- 3、視覚障害者団体などと共に駅施設の危険箇所を視察し、または聞き取りを行い、危険な箇所を改善すること。
- 4、ホームドアが設置されるまで、転落防止など安全確保のための誘導員等を配置すること。

7月26日、JR阿佐ヶ谷駅で、視覚障害者の男性がホームから転落し、総武線にひかれて亡くなるという痛ましい人身事故が発生しました。事故を受け、日本共産党杉並区議団と原田あきら都議会議員は、8月11日、東日本旅客鉄道株式会社（JR東日本）に対し「杉並区内JR駅へのホームドア設置を求める緊急要望」を行いました。

ホーム踏み外しの事故多発 早急にホームドア設置を

区内のJR4駅はホームドアが設置されておらず、従前から、視覚障害者のホーム踏み外しによる事故が多発。視覚障害者団体や個人からもホームドア設置の要望が出されていました。

党区議団と原田都議は、JR東日本に対し、次の4項目を要請しました。

2032年設置予定ではあまりに遅い 早期に設置を

申し入れに対し、JR東京支社総務部は、2032年までに主要駅（杉並区内4駅含む）にホームドアを設置する予定であること、事故が起きた阿佐ヶ谷駅の1・2番線の総武線ホームには、当面警備員を配置すると答えました。



JR東日本支社前で。左から、上保区議、野垣区議、原田都議、富田区議。

党区議団と原田都議は、中央線・総武線は人身事故が非常に多く、2032年を待たずに早期にホームドアを設置することを要請。それまでは常時、警備員を配置するなどして安全確保に努めることを求めました。

申し入れには、党区議団から富田たく、野垣あきこ両区議が参加。上保まさたけ前区議が同席しました。

人身事故の再発防止に向け、区内全駅の安全対策に努めます。

JR田端駅のホームドア



PCR検査 大幅に増やす

いま注目の「世田谷モデル」とは？

●症状のある方や濃厚接触者のPCR検査(従来型)の拡大について

- ・1日あたりの最大想定検査件数を300件程度から600件程度に拡大。
- ・現在運営中のPCR検査実施施設内への検体採取検査機器の設置に向けた検討を進める。
- ・効果として、検査結果判明までの時間短縮化が図られ、検査翌日の午後以降に判明したものが翌朝には判明。
- ・事業費の見込みは、約8億5千万円。

●社会的検査について

- ・従来型のPCR検査の他、介護や保育等の接触を避けられない従事者に対して、行政検査としての「社会的検査」を実施。
- ・1日あたり千人程度を対象に、前鼻腔拭い方式で自己採取により行い、プール方式での検査を実施予定。
- ・検査対象は、介護事業所や保育園・幼稚園で働く職員、特別養護老人ホーム等の施設入所予定者で、2万3千人程度を想定。
- ・事業費の見込みは、約4億円。

(世田谷区ホームページより)

PCR検査の拡充を求める声が広がるもと、世田谷区の保坂区長が提案している「世田谷モデル」が注目されています。

取組み内容が明らかに

保坂区長は、8月24日の記者会見で「新型コロナウイルス感染症に対するPCR検査の取組みについて」を発表。「従来型のPCR検査の拡大に加え、症状のある人や濃厚接触者に限らず、新たに介護事業所や保育園等で働く職員、特別養護老人ホーム等の施設入所

予定者を対象とする社会的検査の実施に取り組み」とし、検査拡大と社会的検査についての考え方(左)を示しました。

財源確保は？

世田谷区は、社会的検査の実施については、「場所」「人材」「財源」の確保が重要で、とりわけ財源については、ふるさと納税による寄付や賛同する民間の支援も必要、国や都の協力も欠かせないとしています。杉並区でも、さらに検査体制を強化するよう、求めています。



東京都環境局に申し入れ けやき屋敷の樹木とツミの保護を

阿佐谷駅北東にあるけやき屋敷は、市街地でありながら貴重な自然が残されており、保全が求められている地域です。さらに数年前から都が絶滅危惧種に指定しているツミが生息していることも確認されており、生物多様性保護の立場からも自然環境の保全が求められています。

そうした地域の重要性を無視し、杉並区も参画してけやき屋敷に巨大施設建設(河北総合病院移転)を進めようとすることに、地域住民からも反対の声が上がっています。日本共産党杉並区議団は、8月21日、東京都環境局に対し、杉並区が環境局との協議もなしに既存樹木の大量伐採を容認するような地区計画を定めたことについて、経過も含め調査し厳正に対応すること、絶滅危惧種であるツミが開発計画から保護されるよう対応を求める申し入れを行いました。



対応した環境局の担当課長は、

区との協議は都の条例や手引きに沿って行うと答えました。申し入れには、党区議団から私と野垣区議が参加。原田都議が同席しました。